

はじめに

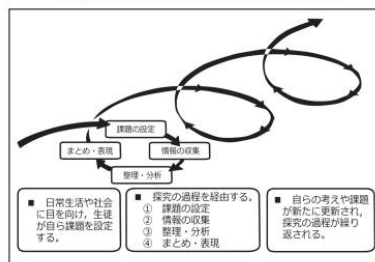
全校生徒145人が、100年前に製造され約60年前に本校に寄贈されたものの、老朽化してまったく使われなくなったフランス・プレイエル社製グランドピアノの修復に取り組みました。



子供たちの活動を追っていくと常にこの①～④の探究的な学習のサイクルに基づき、学習活動が展開されていた

- ①【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ
- ②【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする
- ③【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する
- ④【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

探究的な学習における生徒の学習の姿



全校生徒一人一人は約7ヶ月間活動に取り組みながらこの問いと向きあい、一人一人がそれぞれの答えを出しました。正解が一つではない問いと向き合いながら、自分だけの答えを見つけ出す、本校の総合的な学習の時間「いのちを吹き込む」～大切にしたいもの・大切にしていきたいもの～に取り組みました。

【①課題の設定】 → 【②情報の収集】 → 【③整理・分析】 → 【④まとめ・表現】

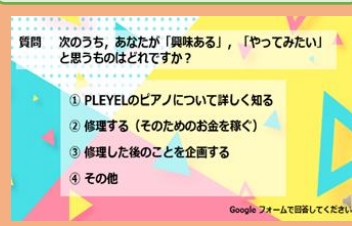
A期：プレイエルとの出会いの時期

校長講話で全校生徒に向けて「私たちは、『PLEYELのピアノ』を未来に向けてどう引き継いでいけば良いのだろうか？」そのために、「『PLEYELのピアノ』に新たないのちを吹き込むためのアクションを考えてください」という問いが出されました。

調律技能士さんを学校にお招きし、子どもたちがプレイエルについて聞きたいことを質問する時間を設定しました。



調律技能士さんの話から考えたことやどのような活動ができそうかなどの自分の考えを整理してやってみたいものを1つ選択しました。



「いのちを吹き込む」とはどのようなことか。  
 ◎人に気にされず忘れられていたものを再び活気があり、元気のあるものにするのだと思います。  
 ◎一番はプレイエルのピアノを使えるようにできることだけど、ピアノに注目して活動することもピアノについて知れるので命が吹き込まれたということになりそう。

B期：3グループを立ち上げて活動を始めた時期

ピアノ修繕のための資金を集めるためのアイデアを出し合いました。生徒一人一人が思いつくままにスプレッドシートに書き込みました。

◎募金活動にはどんな所(場所)でやるのかを考えました。須坂市内で募金活動ができる場所を探したり話し合ったりして案を出すことができました。募金場所についてももう少し深く掘り下げられるようにしていきたいです。



班の生徒たちとの話し合いの中で、募金箱を作るうえでかなり丈夫なものにしなければならぬこと、材料は何で作れば良いか、設置したら任せ放しにはできないこと、募金活動をするのに勝手にはできないことなどの課題が出てきました。

総合的な学習の時間で校外に出かけ募金活動を行っても目標金額が集まるかわからないことや設置した募金箱を定期的に回収しに行くことなどを判断し、募金活動は上記の課題を解決することはやや困難であると考えました。

| 1年シート    | 農業  | リメイク | 募金  | その他 |
|----------|-----|------|-----|-----|
| メディア・SNS | ... | ...  | ... | ... |
| ニューズ     | ... | ...  | ... | ... |
| ...      | ... | ...  | ... | ... |

記念誌に掲載されている地域の事業所からご寄付をいただいて行事を行ったことに気づき、地域の企業を訪問して資金を集めようという考えに変化していきました。

C期：活動が展開して企業訪問に取り組んだ時期

◎今日は、1時間目から4時間目までの四時間で、企業訪問について考えることができました。訪問をする中でも4つに分かれてそれぞれで考えることができたので良かったです。企業訪問に向けて練習や、確認をしていきたい。

◎プレイエルの歴史について調べた情報発信グループから情報をもらったり、プレイエルの活用について企画・運営しているイベント企画グループからどのように活用していくのか情報を収集したりしていました。

◎集めた情報を整理して、企業訪問のプレゼンを考えました。訪問をするので校長室に行き、校長先生を相手にプレゼンの練習をしました。自分たちが説明不足なところを指摘していただき、夏休み中の訪問について考えました。

◎企業訪問をして、どのように話せばいいか内容を考えて、言葉を選んで話しました。お話を聞いてもらえてうれしかったです。お金を集めるということは本当に難しいことなんだと感じました。その場で資金をくださった事業所の方々もいらっしゃいました。初めて資金を得られたときはとてもうれしかったです。演奏会が成功できるようこの企業訪問を頑張りたいです。



◎「ただ修復するのではなく、たくさんの人が関わり、協力し、支えて修理をするというかわりの中で初めていのちが生まれたと実感しました。その後使用したり演奏したり展示したりして誰かにプレイエルの存在が届き、音色を聞いて感動したりするなど人の心を動かしたりすることでのちを吹き込んでいるのではないと思う。」「プレイエルのピアノは貴重な財産です。今後どのような姿になるかがその事実は変わりません。いのちを吹き込んだ後が本当のいのちを吹き込む活動になるのではないかと思います。引継ぎをしていかなければと思います。」